



## 平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年11月12日

上場会社名 SDエンターテイメント株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4650 URL hhttp://www.sugai-dinos.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 正  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 吉住 実 TEL 011-241-3951  
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	3,963	—	79	—	△17	—	△79	—
27年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 28年3月期第2四半期 △82百万円（－％） 27年3月期第2四半期 一百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	△9.15	—
27年3月期第2四半期	—	—

（注）平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期第2四半期の数値および対前年同四半期増減率は記載しておりません。

### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第2四半期	10,664	2,152	20.1	246.83
27年3月期	—	—	—	—

（参考）自己資本 28年3月期第2四半期 2,146百万円 27年3月期 一百万円

（注）平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期の数値は記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	13.40	13.40
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期（予想）	—	—	—	8.86	8.86

- （注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2. 当社は、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。平成27年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。  
 3. 27年3月期 期末配当金の内訳 普通配当6円70銭 記念配当6円70銭

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,800	—	460	—	320	—	280	—	31.22

- （注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無  
 2. 平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）エムシーツー株式会社、除外 1社（社名）  
（注）詳細は、添付資料P. 4「2サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	8,757,000株	27年3月期	8,607,000株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	58,988株	27年3月期	64,788株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	8,654,678株	27年3月期2Q	8,503,978株

（注）当社は、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「発行済株式数（普通株式）」を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続きを実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、第1四半期連結会計期間に子会社を取得したため、第1四半期連結会計期間から連結財務諸表を作成しております。

当社は、以下のとおりアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定であります。

平成27年12月9日（水）・・・証券アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかな景気の回復基調が続いているものの、中国を始めとするアジア新興国等の景気の下振れなど、不安定な要素も抱えつつ推移しました。

このような環境の下、「健康グループ」の経営理念であり、当社の経営の基本方針である「皆様の『けんこう (KENKOU) 』をつくり、『えがお (EGA0) 』と『かがやき (KAGAYAKI) 』と『ありがとう (ARIGATOU) 』を創造し続け、世界中に広めます。」の経営理念のもと、経営の効率化を図り、一層の収益力の強化に取り組んでまいりました。

前期はコスト削減・体質改善を中心とする「フェーズ1」を推し進め成果を上げほぼ終了し、今期は売上拡大・成長を主眼とする施策を推進する「フェーズ2」へと移行、セグメント横断的な施策として、再来場促進を狙いとしたスマホ用「ディノスアプリ」を最大限に活用するなど、顧客基盤強化施策を実施したほか、ポイントカード会員システムを一新し、従来できていなかったCRM (Customer Relationship Management) の強化推進を進めるべく準備に入っております。

また、電力料金値上げによる負担増を抑えるための施策として、従来より北海道内の自社ビルである大型複合アミューズメント施設を中心に、インバーター制御盤の交換や電球のLED化を進めてまいりましたが、今期も引き続き、一部店舗に省エネのための設備投資を順次実施しており、コスト削減に努めております。

平成27年5月12日に開示したとおり、エムシーツー株式会社の発行済全株式を健康コーポレーションから譲受けしたことに伴い、健康コーポレーション以外からのコールセンター事業などの通信事業、事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、ソフトウェア販売事業及び介護事業を営むエムシーツー株式会社及びその子会社3社を譲り受けしたこと、加えて介護事業と通信事業を営む株式会社フォーユー及びその子会社を連結子会社にしたことで、業容の拡大、ならびに既存事業との連携及び効率化を図りたいと計画しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は39億63百万円、営業利益は79百万円、経常損失は17百万円となりました。ゲーム店舗1店舗閉店により、固定資産除却損等の特別損失を39百万円計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は79百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における売上高をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	前年同四半期比 (%)
GAME事業部 (千円)	1,151,293	—
フィットネス事業部 (千円)	1,115,073	—
ボウリング事業部 (千円)	553,921	—
施設管理事業部 (千円)	615,787	—
(シネマ) (千円)	(459,153)	(—)
(その他) (千円)	(156,633)	(—)
その他 (千円)	527,008	—
合計 (千円)	3,963,084	—

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 施設管理事業部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

3. 施設管理事業部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

4. 当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(GAME事業部)

GAME事業部につきましては、平成27年5月に新規店舗として「ディノスパーク南福島店」を出店しました。ビデオゲームの「鉄拳7」、「Wonderland Wars」などのヒット作に恵まれたほか、閑散期にクーポンを配布して再来場を促しました。名古屋市内のゲーム店舗1店舗の閉鎖や一部改装のために休業がありましたが、シルバーウィーク期間中は既存店が堅調に稼働したことなどにより、売上高は11億51百万円となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、ホットヨガのハーティノルベサ店を加圧スタジオのBLOOMSに業態転換しました。その他、オリジナル物販商品のラインナップを拡大したこと、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどのKPIの改善策の実施などにより、売上高は11億15百万円となりました。

(ボウリング事業部)

ボウリング事業部につきましては、前期から推進しているLTB(ボウリング教室)を強化し、トーナメント、リーグへ繋げ顧客の拡大を図りました。また、前期好評を得たDJで場内を盛り上げ、アルコール販売強化を目的としたイベントガール投入を継続し、「パーティ・ボウリング」を推進したことや新しいメニューの追加、シャンパン等高額商品の販売も試みました。さらには、マスキング広告の売り込みにも着手したことなどにより、売上高は5億53百万円となりました。

(施設管理事業部)

施設管理事業部につきましては、「シネマ」部門において、「ジュラシック・ワールド」、「バケモノの子」及び「HERO」等ヒット作を例年よりも多く上映できました。夏休み映画でスタンプラリーを実施したほか、一部地域では競合店の撤退等もあり、売上高は4億59百万円となりました。「その他」に分類している賃貸施設管理部門においては、新たに室蘭の店舗の遊休スペースを他社のカラオケ店に賃貸し(平成27年5月)、売上高は1億56百万円となりました。

(その他)

その他のカフェ事業等につきましては、利用料金の改定、新しい飲食メニューの導入、スキャナー導入などのビジネス機能の強化や各種企画開催等の施策を実施しました。また、オンラインゲームの新タイトル導入によるコンテンツの強化、それに合わせたゲームパック料金サービスを開始しました。

また、グループ会社による事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、通信事業、訪問介護事業、介護事業及び通信テレマーケティング事業の運営により、売上高は5億27百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結累計期間末における総資産は106億64百万円、負債は85億12百万円、純資産は21億52百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、16億16百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、1億66百万円となりました。これは主に、未払消費税等の減少額が95百万円及び税金等調整前四半期純損失が58百万円ありましたが、非資金費用である減価償却費が3億26百万円あったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、1億43百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が1億55百万円ありましたが、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入が2億59百万円及び有形固定資産の売却による収入が15百万円あったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、3億50百万円となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出が5億80百万円、社債の償還による支出が4億69百万円及び長期借入金の返済による支出が4億9百万円ありましたが、長期借入れによる収入が15億円及び短期借入れによる収入が3億30百万円あったことなどによるものであります。

なお、当第2四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前期末及び前第2四半期連結累計期間との比較分析は行っておりません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年10月22日付「業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ」にて発表したとおり、以下の理由により、個別・連結とも前回発表した業績予想に変更はありません。

年末年始興行に「スター・ウォーズ」シリーズ最新作が控えているシネマ事業・ボウリング事業が下期も好調を維持できる見込みであることをはじめ、逆風下にあったGAME事業においても既存店売上前年同月比超え店舗が増加するようになってきたことのほか、インターネットとリアル融合「ネットキャッチャー」などの事業開始を計画中であること、連結子会社のエムシーツー株式会社等の利益貢献が6ヶ月間フルに見込めることなどが挙げられます。

また、フィットネス事業においては、親会社の健康コーポレーション株式会社やRIZAP株式会社のノウハウを活用し、4月より準備を始め、7月より実験モニターを始めた当社フィットネス事業オリジナルの新ダイエットプログラム『FIVE (ファイブ)』（平成27年10月22日付ニュースリリース「SDエンターテインメント、ダイエットプログラム『FIVE (ファイブ)』本格スタート!」を参照 <http://www.sugai-dinos.jp/company/>)を既存フィットネスクラブ「SDフィットネス国立店」内にオープンし、10月より本格宣伝広告活動を開始したほか、プロテインほかサプリメントなど当社オリジナル商品の拡充(2015年10月6日付ニュースリリース「SDフィットネス「女性向けスイーツプロテイン」新発売」参照 <http://www.sugai-dinos.jp/company/>)と販売強化、店名変更一周年キャンペーンなど売上上昇が期待できます。

加えて、上期に実施した設備投資、当社大型複合施設駐車場への「次世代自動車充電インフラ整備」については、下期に補助金収入として特別利益約17百万円計上されることが既に見込まれております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期累計期間において、新たに取得したエムシーツー株式会社を連結の範囲に含めております。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、エムシーツー株式会社の取得により同社の子会社である3社(ITグループ株式会社、ITネクスト株式会社及びIT Telemarketing株式会社)についても連結の範囲に含めております。また、同じく特定子会社の異動には該当しておりませんが、株式会社フォーユー及び同社の子会社である株式会社フィリアを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準の適用)

当第1四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成27年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,616,395
売掛金	382,169
商品及び製品	41,633
原材料及び貯蔵品	84,672
その他	232,789
貸倒引当金	△2,321
流動資産合計	2,355,338
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	3,030,868
土地	2,670,817
その他(純額)	866,016
有形固定資産合計	6,567,702
無形固定資産	
のれん	176,325
その他	51,150
無形固定資産合計	227,475
投資その他の資産	
差入保証金	1,166,262
その他	271,912
投資その他の資産合計	1,438,174
固定資産合計	8,233,353
繰延資産	75,523
資産合計	10,664,215
負債の部	
流動負債	
買掛金	263,777
短期借入金	10,270
1年内償還予定の社債	862,800
1年内返済予定の長期借入金	769,294
未払法人税等	19,998
ポイント引当金	9,050
その他	1,404,792
流動負債合計	3,339,983
固定負債	
社債	2,429,600
長期借入金	2,059,351
資産除去債務	146,074
その他	536,991
固定負債合計	5,172,017
負債合計	8,512,000

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成27年9月30日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	148,885
資本剰余金	1,855,845
利益剰余金	148,997
自己株式	△13,288
株主資本合計	2,140,440
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	6,499
その他の包括利益累計額合計	6,499
新株予約権	5,275
純資産合計	2,152,214
負債純資産合計	10,664,215



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	3,963,084
売上原価	836,456
売上総利益	3,126,628
販売費及び一般管理費	
給料	788,359
退職給付費用	10,507
地代家賃	579,582
その他	1,668,942
販売費及び一般管理費合計	3,047,391
営業利益	79,236
営業外収益	
受取利息	1,241
受取配当金	349
受取保険金	3,831
その他	1,999
営業外収益合計	7,421
営業外費用	
支払利息	38,359
その他	65,345
営業外費用合計	103,705
経常損失(△)	△17,046
特別利益	
投資有価証券売却益	2,672
受取和解金	4,000
新株予約権戻入益	244
特別利益合計	6,916
特別損失	
固定資産除却損	38,367
減損損失	9,673
店舗閉鎖損失	655
特別損失合計	48,696
税金等調整前四半期純損失(△)	△58,826
法人税、住民税及び事業税	14,978
法人税等調整額	5,385
法人税等合計	20,364
四半期純損失(△)	△79,190
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△79,190

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

		当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純損失(△)		△79,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金		△3,655
その他の包括利益合計		△3,655
四半期包括利益		△82,845
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益		△82,845
非支配株主に係る四半期包括利益		-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純損失(△)	△58,826
減価償却費	326,415
のれん償却額	5,951
減損損失	9,673
貸倒引当金の増減額(△は減少)	95
ポイント引当金の増減額(△は減少)	300
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,757
新株予約権戻入益	△244
受取利息及び受取配当金	△1,591
支払利息	38,359
社債発行費償却	10,131
有形固定資産売却損益(△は益)	△605
有形固定資産除却損	56,667
投資有価証券売却損益(△は益)	△2,672
受取和解金	△4,000
売上債権の増減額(△は増加)	△40,574
たな卸資産の増減額(△は増加)	△21,753
未収入金の増減額(△は増加)	5,867
その他の資産の増減額(△は増加)	29,616
仕入債務の増減額(△は減少)	△26,635
未払消費税等の増減額(△は減少)	△95,687
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	45,419
その他の負債の増減額(△は減少)	△42,393
小計	220,758
利息及び配当金の受取額	407
利息の支払額	△35,902
和解金の受取額	4,000
事業構造改善費用	△891
法人税等の支払額	△21,771
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>166,600</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期貸付金の回収による収入	12,030
長期貸付金の回収による収入	11,853
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	259,880
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△2,511
有形固定資産の取得による支出	△155,142
有形固定資産の売却による収入	15,594
投資有価証券の取得による支出	△834
投資有価証券の売却による収入	15,009
無形固定資産の取得による支出	△4,024
差入保証金の差入による支出	△21,686
差入保証金の回収による収入	12,848
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>143,017</b>

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成27年4月1日  
至 平成27年9月30日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	330,000
短期借入金の返済による支出	△580,000
長期借入れによる収入	1,500,000
長期借入金の返済による支出	△409,671
社債の発行による収入	193,081
社債の償還による支出	△469,400
新株予約権の行使による株式の発行による収入	98,828
長期未払金の返済による支出	△72,365
リース債務の返済による支出	△142,057
配当金の支払額	△56,977
連結子会社の旧株主に対する配当金の支払額	△40,840
財務活動によるキャッシュ・フロー	350,598
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	660,216
現金及び現金同等物の期首残高	956,179
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,616,395

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。